

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概 要)

第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会において、北海道の木材需給の状況など活発な意見交換が行われました。主な意見につきましては「3」のとおりです。

1. 日時

平成26年1月28日（火曜日） 13時55分～16時10分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見

- 全道的に製材工場は原木の在庫不足で、今後、材価が更に高騰することも予想。国産材は価格変動が大きいため信頼を失いかけてきており、価格が上がるのであれば、せめて量は安定的に供給してほしい。
- バイオマス発電事業に伴う原料材の価格が上昇。今後、原料材や低質材の需要の増加が予想されるが、造材業者や運送業者の数にも限りがあり、材を安定的に供給するためにも、事業体の育成を図っていくことが必要。
- 製材工場では、原料価格の上昇分を、ただちに製品価格に転嫁することができない。今後、更なる原料の価格上昇が続けば、輸入材や木材以外の代替品に置き換わる可能性もある。
- 一昨年は価格下落、今年度は原木不足による価格高騰と価格の変動が大きく、循環型の森林づくりには適正な原木価格が必要。特に、バイオマス資材については適正な価格が求められており、国有林からの安定供給が重要。
- カラマツは梱包材、トドマツは羽柄材と産業を支える重要な資材との位置づけとなっているが、今後、大径材の出材が増えることから、径級に合った需要拡大による付加価値が必要。
- 局ホームページで年間及び月別の販売予定量等の情報を公表しているが、価格安定を図るためにも、より詳細な情報を公表してほしい。
- 造材が冬期間に集中するため、造材や運材の人手不足が問題。一年を通して出材が平準化するような仕組みを検討し、それに伴う事業量の確保が雇用安定に繋がるのではないかと。
- 国有林、道有林、市町村有林、民有林（道森連）における道内の資源量、年間出材量、今後数年間の見通しなど、需要者側への一元的な情報提供が必要。

- 委託販売（一般公売）は、大きなロットでの販売ではなく、小さなロットにして伐採から市場に出来る限り少ない日数で届くようにすることが必要。
- 各委員からの意見やデータを見ても全道的に原木は不足気味。国有林としても何らかの対応策が必要ではないか。

4. 検討結果

各委員からは、最近の木材需要動向等を踏まえ、国有林からの木材の安定的な供給を求める意見が出され、北海道森林管理局としては、3月の素材の委託販売（一般公売）の日程を調整するなどして、年度内に3万m³程度の追加販売に取り組むこととする。